

秋の雨飾山山行と温泉

23期 鳥越

元来、文章を書くというのは、小学校の読書感想文以来大変苦手なのですが、舟田事務局長に、この前雨飾山へ行ってきたという話をちらっとしたところ、20期代の原稿が少ないので、その話をぜひ書いてほしいという依頼が突然来ました。会計とは名ばかりで、普段の事務局の仕事はほとんど舟田さんにやってもらっているし、歩いて5分ほどの近所のよしみもあるし、ここは断る理由も難しく、出筆依頼を受けることと次第です。ただしOBとなってから15年以上がたちますが、山へ行く機会といえは年に1～2回、1泊2日で白山や立山へいく程度でしかなく、最近になってようやく2泊3日で北アルプス、後立へ行くことが年1回あるかないかといった私が、山行の原稿を書いてもあまり面白い原稿とはならないのではないかと思いますので、そこのところを含んだ上で読んでいただければと思います。

さて本題ですが、今年の10月2日に、百名山で有名となった雨飾山へ会社の先輩・後輩男5人、女1人で行ってきました。実は2年前にも同じような時期に、やはり会社の人で雨飾山へ行ったのですが、その時は頂上へ着いた後土砂降りとなり、こんな大雨の中を歩くのはいつ以来かなと考えてしまうほどの雨の中を全身ずぶ濡れで下りて来たというのがあって、その時にぜひ天気の良い時にもう一度上ってみたいと思っていたし、今回は天気が良さそうだったので、多少期待に胸躍らせながらの気分でした。

10月2日(土)AM5:30に金沢を出発、途中小矢部SAで小松出発組と合流して、一路小谷温泉へ向かいます。しかし皆さんも同じ感想だと思うのですが、大糸線の道路は本当に良くなりましたねー。もう地藏さんも、国界橋もトンネルの上。昔の道を忘れてしまいそうです。そんなことを考えている間もなく、小谷温泉すぎの上り口に到着。さあ静かな秋の山を出発、と思ったらちょっと様子が違う。何と広い駐車場が満車なのです。連休でもないのに関東方面、関西方面、名古屋方面、各地のナンバーがズラッと並んで、中高年登山ブームってすごいんだなと改めて感じざるを得ませんでした(そういう自分も中高年の部類に入りつつあるのですが)。駐車場の手前の林道に車を移動させて、今度こそにぎやかな秋の山へ出発です。大海川沿いに7～8分進んでから、樹林帯の急登開始。仕事の疲れ?と日頃の運動不足のせいで急登はかなりこたえます。それにここの急登は30分近くずっと続きますから、早くもバテ気味です。そうこうしているうちに、やっと急登も終わり、トラバース気味の道となり、やがて少し下って荒菅沢へ出ます。ここはなかなかのビューポイントで、沢の上部に雨飾山の三角形のピークと、その手前にふとん菱と呼ばれる岩壁が圧倒的な迫力で迫ってきます。沢の水量も豊富で今までの上りの疲れをいやすにはもってこいの場所です。ここから再び急登となるのですが、空は快晴、それにここから徐々に樹林も低くなりアルペンのムードも味わえるため、快調な上りが続きます。1時間程も上ると、広い笹原に出て、ここからピークまではもうすぐです。今回で2度目の雨飾山ですが、個人的な感想としては、このピーク手前の一面の笹原が雨飾山のベストポイントではないかと思うのです。遠く姫川の河口には糸魚川の町並みが小さく見え、その向こうには日本海が広がり、標高2000mに満たない山とは思えないほど高山的な雰囲気も味わえます。ここでのんびり昼寝ですれば気持ちいいだろうなと思いながらピークに到着。案の定ピークは関西方面からのツアー客もいたりして超満員。昼食を食べながら、にぎやかな秋の山を満喫し、

下りは一気に再び小谷温泉へ。2時間ちょっとで上り口に到着し、今回の山行は無事終了となるわけですが、ここから今回のもう一つの（本当はこっちがメインかも知れない）お楽しみ、日帰り山行の後の温泉です。実は2年前もやったのですが、日帰り山行の後に温泉に泊まるというのは最高ですよ。クセになりそうです。泊まった場所は、上り口から車で5分ほど戻った、小谷温泉の一番奥にある「柎の樹亭」というところで、ここがまた非常にいい宿なのです。ぜひおすすめスポットですので、ガイドブック用の紹介を少し。ここは関西の某大学のワンゲル出身である会社の先輩の、大学時代の友人の方が夫婦でやっている宿で、夫婦そろってワンゲル出身です。民宿より若干豪華な雰囲気ですが、非常にアットホームな感じで、食事は最高に美味しいし、すぐ近くには村の作った露天風呂まであります。玄関からは遠く後立の山並みも見えます。ぜひ一度利用してみてください。

とりとめのない文章となってしまいましたが、ふらっと山へ行くといった感じで行く時なんかには、おすすめコースとなるとおもいますので、機会があればぜひお試しください。

蒲原良太郎の追悼山行日誌！！

蒲原 道子

日時 99年8月20,21,22

名古屋の自宅を3時50分に出て36期の清水君の運転で、朝とは言うものの夜、殆ど眠っていないままの出発です。3人で車に乗りいざ富山に、一宮インターに4時19分→北陸道を通して立山駅に8時着。

集合時間、8時30分 未だ間に合う、

いつも集合時間には殆ど守らないという、ワンゲル時間があるみたいで、でも私と主人はせっかちな性格で時間にはピッタリ！

立山駅、今回で7回目

見なれた風景、皆来ているかなあ？ 最近は皆と頻繁に逢っているのになんか懐かしさよりちゃんと来ているかの方が心配、今年は皆早い、どうしたのか時間を守っている「おかしい」

今から荷物の点検、振り分け、私と主人は悪いと思いつつ、持てない、今年こそと思いつつ無理、皆の荷物分けを見ているだけ、私、10キロ、主人、テントがあるので14キロ、之を持つだけでも大変です。

私も以前なら出来なかったが今では平気（ちょっと無理しているかなあ）になりました。いよいよ立山駅9時出発、 美女平9時30分着、

天気がいまいち良くない、途中の道でも雨がパラパラしていた、少し心配、そうこうしている内に、室堂に到着、ここからが大変いよいよ登山開始、室堂10時50分出発、雷鳥沢に11時30分、昼食

メニュー（サンドイッチ、ハム、チーズ、サラダ菜、オレンジ、なぜかオレンジジュース）とても豪華な昼食、30分ぐらい休憩してさあここから、劔御前まで頑張ろう！！



進藤 清水 和田 片岡 福田
 樫村 石川 奥 山本 新倉 寺島 柴田
 藤牧井上 蒲原 蒲原 井村 吉田 立山駅で

ここの登りは 30 分がとってもきつい、ハアハア、呼吸がづらいいつもならここで、もうバテているが今回は違う、すこし有酸素運動をしたお陰で思ったより辛くない、汗が額からどっと流れてくる、そうするとふっと楽なときがある、こんな事感じたのは初めて、心の中で嬉しくなった。私にもこんな気持ちで登れるんだあって一人でうきうきな気持ち、主人はどうなんだろう？

前の日まで遅くまでいつも仕事をしているので、きっと疲れているんだろう？

だんだん標高が高くなるつけ頭が痛くなるみたいで、何回登っても痛いみたい之はきっと疲れていて登るからだと思う。

ゆっくり登ればきつと言いたいと思うけど、ようやく劔御前に着き後は劔沢小屋に行くだけ、3 時 30 分着、雨が降ってくるので手早くテントの設営、之も慣れた手つきで設営終わり、少しテントで休憩し、夕食の準備（私と主人は作ってもらうのを待っているだけだけど）5 時 夕食 （ビーフシチュウ）

6 時 息子の追悼 劔が見える高台の場所で、毎回ここに来て本当に嬉しい、みんなと手を合わせ、[また来た] よって息子に話しかけた。ここに来るととっても悲しくなる。

二日目、

3 : 30 起床

4 : 00 朝食

5 : 00 出発

朝、二時ごろ目がさめた、トイレに行きたくなりテントから出て、空を見た星がどっと落ちてくるみたい、ここにいること、ここになかったらこんな星は見れない、こんな事考えていると不思議な気持ちになる。

未だ起きるのに早いのでもう一度眠りに入った。

平蔵コルそば

片
福 吉 進 岡
清 田 田 藤 井 山
水 蒲 井 上新本奥 藤
前 蒲原 村 樫 倉 出 牧
田 原 村
金 石 柴
井 川 田



4:00 朝食 棒ラーメン

5:00 出発 雨が降りそうな天気なので今日はピークまでは行かない事にし、
息子の落石の現場近くまで行く事に、

いざ出発、

剣山荘まで途中少し雪のある場所を慎重に通過し、5:45 分剣山荘につき少し休憩
10 分ぐらい、

さあ少し登りを頑張ろう！ 一服 6:45 分 休憩 15 分

前 6:45 分 休憩 15 分 8:30 分

早めの昼食、パン、ウインナー、

その後現場まで行くのはやめ、前 6:45 分 休憩 15 分 8:30 分
た、とっても疲れました。。。。。

そのときのビールの美味しさは、言い表わせないくらい美味しかった。

夕食まで、又テントで休憩、うとうと眠っていたら、懐かしい声が聞こえてきました
34 期の岡田さんだ、一人で登ってきたみたい、どうも途中、道を間違えてきたみ
たい、剣山荘に行ってしまった、大変な思いをしたみたいです。

ご苦労様でした。

夕食を食べ、この日、メニュー（ビーフシュチュウ）

3 回目の追悼をしました

22 日

さあ今日は帰るだけだあ、、、

5 時 起床

8 時 20 分 出発

雷鳥沢に 9 時 20 分着き、いつもなら休憩するけど雨のため休憩なしで行く事に
熱沢小屋からずうっと雨、初めての体験でした。辛かった歩いていると雨が顔にか

かり大変でした。最後の室堂までの登りの階段が、とっても嫌いここを過ぎれば、もうつく頑張ろう、みくりが池の前ぐらいで息子の同期の清水君が私のリュックを持ってくれました。も嬉しくて元気になり、ようやく室堂に着きました。此れで今年の追悼山行は終わりです

最後に、
毎回、皆が息子の為に有難う。

毎年みんなに迷惑をかけないように、今年はエアロビクスをしたり、プールに行ったりしました、又体を鍛えて、毎行けるように、皆と登れるように、いつまで行けるかわからないけど、また鍛えていきたいです・

最近では山以外皆と会う事が多く、皆結婚をしそのたび私と主人は二次会に出席させてもらっています。つい最近、京都で34期の片岡君、37期（福田君、新堀さん）の二次会にも出ました。其れにいろんな処に行く事が出来て嬉しいです。

皆とお酒を飲んで喋っているだけでなんかとっても幸せな気持ちになれます
なんでか解からないけど、今では仕事の仲間とか友達とかいろんな人との交流の中でワングルは私と主人には欠かせなくなっています。

息子がこんな形で、私たちにいろんな事を教えてくれていると思うと嬉しいです
息子が居たからこそ楽しさ辛い事もあったけど今では幸せです。

本当にワングルに人達に感謝しています。
有難う。 此れからも宜しく！！！！



拡大15期会 木曾岬大会報告

幹事 15期 祖父江 直久

「そして生が、やはり、死ねない人間が背負わねばならないものの様に思えて来る。つまらなくて、そして本能的でしかあり得ない生は、それ故にこそ重いものとして光って見えてくる。」

(横井 昭次 追悼集より)

追悼集の横井の文章には必ず「死」が出てくる。横井ほど、生と死を見つめていた男は、私のまわりにいない。その思想は哲学的で、聞いていても理解出来ないことが多かった。

今回の慰霊に際し、追悼集を読み直してみたが、眼は文字を追っているものの、頭の中のモニターは、横井の顔が映し出され、ほとんどの文字は脳の中を素通りしてしまった。

9月11、12日のワッゲル拡大15期会木曾岬大会には、遠路はるばると集合してもらってありがとうございました。お蔭様で無事終了することが出来、佐野君ともどもホッとした所です。あの暑い、よく晴れた日が懐かしく思い出される今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

低俗(?)な長島温泉の近くという設定のせいか、連絡の遅延のためか、出席者が当初の予想の47名を大幅に下回り、14名となりましたが、逆にこじんまりとまとまり、不慣れな幹事としてはスムーズに会を運営することが出来てよかったと思っています。しかし、次の松林君には頑張ってもらって多数参加していただくようお願いする次第です。

今回は11期の森川さん、16期の川端、清水両君も参加してくれ、御苦勞様でした。また、4年振りに横井君を追悼することが出来て、胸のつかえが少しラクになった気がしました。松縄君からも、「葬式も行けずにずっと心残りであったが、今回行けて本当に良かった」という電話をもらって、幹事として嬉しい言葉をもらったと思いました。

9月12日、みんなと別れたあと森川さん、上馬夫妻と、桑名の六華苑という明治時代の建物を見学し、落ち着いた和風庭園の茶室でお茶をいただいて帰りました。もし又来るようなことがあれば案内します。

本来一人でやるべき幹事の仕事の面倒な部分をみんなやってくれた佐野君にこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。

ではまた来年、金沢で会いましょう。



間所 川端 佐野 鈴木 清水
祖父江 坂尻 舟田 森川 奥名
上馬 高村 松縄 上馬

金沢大学ワンダーフォーゲル部拡大15期会
木曽岬大会会計報告

平成11年9月18日
報告者 佐野 哲雄



収入の部	金額	備考
前回繰越金	34,082	
今回会費	224,000	16000*14
小計	258,082	
支出の部		
旅館「庄 助」	207,733	
喫茶「BMW」	8,500	
なばなの里	12,000	1000*12
お弁当	12,000	1000*12
お花代	5,000	
通信費・事務用品費・雑費	12,849	
小計	258,082	
合計	0	

注意

桑名の居酒屋「串まん」の費用、及びタクシー代は、
祖父江先生のポケットマネーからの支出となっています。感謝！！

残暑厳しい中でしたが、幸い天候にも恵まれ、楽しい時間が過ごせたかと思います。
スライド、自然観察員の説明、牡丹鍋、花火、停電、焼き蛤、医院見学、慰霊、ケーキ
ベゴニア、河口堰、松坂牛のお弁当に検尿コップと盛りだくさんの2日間でしたね。
来年は、出会いから30周年ということで金沢での開催とし、
幹事は松林君にお願いすることになりました。
来年もおいしいお酒が飲めるよう、お互いがんばりましょう。

(舟田 節子)

弥富―金沢発の観光ルートに、まず載ってはいません。15期同期会では、地元ならではの名所を幹事にコーディネートしてもらえるのが、本当に楽しみです。現役時代には、後年にこんなスペシャルワンデリングサービスまでついていとは知りませんでした。現役の新人勧誘に是非役立ててほしいです―なんちゃって、駅舎から何から、金魚のモチーフがあふれています。

「なんで？」と聞いたら、弥富は、金魚生産NO.2の町で、テレビで金魚品評会が映っているのもここと教わりました。千佳ちゃんと私は、これで恥を搔く機会が一つ減ったと喜び合ったものです。なるほど水田に交じり多くの養殖池が広がり、かなたには長島温泉の大観覧車が見えて、太平洋を控えた水郷地帯なのだと納得できました。

「庄助」の部屋はもう温泉とビールでできあがった人が一杯。これでは送迎係が哲ちゃんになるはずで、ワングルには飲めない人も必要と、またここでも悟ることがありました。

女性用の部屋で一息つきながら、敏栄さんのスケッチブックを見せてもらいました。上馬さんの不調、入院で千々に乱れた心か絵にも綴られていて、生きるとは闘いであり、支え合いであるとも改めて思いました。何がどうではないけれど、一年の無事を喜び、讃え合う大切な集まりです。

おしつけがましく、高山植物のスライド上映。何がおしつけがましいって、全部今年撮影の生々しい映像で、観光新道のものは先週撮ったばかりのものだったからです。それに奥名会長のほやほや自然解説員の説明付き。このくらいノル性格でないと、根性だけではOB会の屋台骨は支えられません。

クラクラときた所で、牡丹鍋へ。水田の真中でイノシシ？と思ったけれど、川端君の言うにここらはまことにイノシシの多い所で、害獣駆除にも大いに食すべきとのこと。恥を搔く機会がまた一つ減ったとすべきか迷いつつ、箸を進めれば、ポンポンと花火の音。長島温泉今夏最後の花火だとか。誰か気を回して消燈したのかと思ったらほんとの停電で、15期になりきった森川さんと寄り添い？光の競演を楽しみました。

二次会は桑名までタクシーを走らせ、居酒屋へ。あの有名な、桑名の焼き蛤他を御馳走になりました。さっきの庄助もここも、（ついでに翌日のケーキ屋も）、皆、祖父江先生のお得意様で、携帯でのそつない連絡で、着けばVIP席が用意されておりました。清水さんが「学会の帰りということにしよう」と気取ってみたいけれど、親父さんにはすぐばれてしまったみたい。

すっかりいい気分でお宿に戻り、恒例ワングルソングのゆうべ。なんであの頃、こんな歌ばかりで満足できたのかな？その歌が、いろんな思い出を蘇らせてくれます。歌詞があやしいのは仕方なしとして、なんべん白山の尾根を歌い出したっけ間所さん。その席で次回金沢編幹事は松林さんと決まってしまうました。

翌朝は、お供えの花束を取りに祖父江医院に寄り、内部も見学させてもらいました。華やかな女性スタッフに囲まれにこやかにほほえむ院長先生の写真。いかにも、関節や腰の痛みがほんわか薄らいでしまいそう。卒業してから得た家族、仕事に励む姿を垣間見るのは、何かほのぼのとした幸せです。もう学生時代は帰らない――それがキリキリとした感傷をよぶこともあったけれど、みんな相応の責任を背負い生きてきた――それを振り返る時間を共有できるのは、感謝としかいいようのない気がします。





そんな感謝の気持ちに浸りながら、木曾川べりに立ちました。金沢では想像のつかないほどの広い広い河川敷とはるかかなたの対岸と、まぶしい空でした。この近くで4年前、横井さんは亡くなりました。

大分からの第一家と立山に登った8月14日、「ワンゲルからの電話がいっぱいかかっていたぞ」と旦那。数日前にやっと会報を発送し終えていた私は、そんなに反響があったんか！と脳天気ニタッとしたものでした。が、ようやくつながった電話は思いがけない訃報でした。机の上には宛名を書いたままで、お盆に本文を書くように用意してあった山のポストカード。横井さん宛のを手にしながらポロポロ涙がこぼれました。

事故の時にもこんな青い空が広がっていた筈です。今も水上スキー大会で賑わっています。賑やかな笑いが一瞬に凍りついた日のことは、想像するだに残酷です。どんな哲学書より、宗教より、高村さん、比田井さん、横井さんは、「生きる」ことを教えていきました。きちんと生きていかなばと思います。

木曾三川公園。恥ずかしながら、私、川の名前を棒暗記した記憶までしかありません。長良川の源流が白山…の知識がプラスされた程度でした。川との関いのあった地と認識すると、景

色の中にも、防水の備えが見えてくるのが新鮮な発見でした。

ベゴニアガーデンは見る値あり。植物園はそれなりに見たことはありますが、すごいスケールでした。これほどの管理ができるなら、農産物の未来は明るい！と思えました。

そして噂の河口堰の横で、松坂牛のお弁当を広げましたが、配達のおっさんが柿安の店員ではなく、祖父江さんの父上と判り狼狽。その上に、ビールを本物の検尿コップについてもらい、尿をビールみたいと思ったことはあるけどなあ。そう、幼児は右から10まで数えて、じゃあ左からは？と言うと、やっぱり数えてみてでないと10とは納得しません。これは本物のビール！逆転の発想に軽い頭のきしみを覚え、思わずそんな幼児の気持ちがわかった気がしたヒトコマでした。

河口堰もしっかりお勉強していよいよお別れです。盛り沢山のスケジュールでの歓待ありがとうございました。男は黙って、ずっとややこしい精算に励んでいた哲ちゃんもありがとう。30年経っても、成長と発見のあるこのご縁を本当に大切に思います。

今回は金沢で。歓待というよりシゴキかもね。でも優しく、懐かしく30年前を再現させます！

23 期越前海岸海水浴同期会 H 11.8.7～8

23 期 石地隆司

11 月のある日、学研教室と書かれた見慣れぬ封筒が舞い込んだ。「しまじろう」の DM はよく来るが学研は初めてだなあと裏を見てドキリ。編集長からの原稿依頼であった。幹事だった責任上、報告書は書くつもりでいたが、催促されないと腰が重くて…。それにしても今月いっぱいとは切がきつい…。20 期代の原稿が少ないということなので、いろいろ寄り道しながら報告を。ちなみに参加者は以下の通り。

	大人	子供	計
石地	1		1
宇野	1		1
小久保	2	1	3
興井	2	2	4
高橋（旧姓塩山）	1		1
戸水	2	3	5
中川	2	3	5
名倉	2	3	5
宮西	2		2（犬 1 匹）
村井	2	2	4
計	17	14	31

前回の同期会は富山グループが主催して五箇山で、前々回は金沢が白峰で行なった。今回からは名古屋にもやってもらおうかという話も出ていたが、中心となるべき窪川がアメリカに飛ばされてしまったので今まで通り関西担当となった。で、昨年末、23 期関西支部恒例の忘年会において、今回の打ち合わせをした。関西のメンバーは、僕と宮西、興井、小阪のつつあん、高橋（旧姓塩山）のちーちゃんの 5 人。ここ 2 年程とつつあんは仕事が忙しいらしく今回も欠席。

この忘年会と言えば 3 年前だったか、鈴木ヤスが参加したことがある。ヤスが広島から岡山に転居したというので、それなら関西の隣県だから関西支部みたいなものと宮西に相談したところ、早速声をかけたらしい。結局仕事場が広島だったので当日は広島から新幹線でやって来た。忘年会ごときに呼ぶ方も呼ぶ方だけど、来る方も来る方だ。こういう付き合いの良さが何とも嬉しい。ヤスとは興井の披露宴（前日がヤスの披露宴だった）以来だったから 6 年ぶり。23 期のほとんどが卒業以来この時くらいしか会っていないらしい。大津駅で待っていると向こうから学生時代と変わらず「やあ」と言ってヤスが来た。が、見てビックリ。確かにヤスなのだがあのヤスが丸くなったのである。2 合飯食っても太ら

ん、春合宿ではザックの方が重いなどと言われていたヤスが見事に丸い。聞くと結婚して10 kg 以上太ったらしい。まあ典型的な幸せ太り。体重も僕と逆転してしまった。ワングル時代を思うと考えられないことである。ヤスは広島大の大学院で心理学の学位をとり短大の講師をやっているとか、確か言ってた。カウンセリングもしているらしい。学生時代を知る我々からすると、大丈夫かな？と思ってしまうけど…。

話がかなり横道に逸れてしまったが、打ち合わせの前に宮西と相談して幾つか候補をあげておいた。前回関西担当のときは白馬乗鞍スキーを企画したので今回は関西方面でやろうということになった。ただ、メンバーの大半は北陸なのでアクセスを考えると滋賀県北部あたりとなる。山なら伊吹山くらいかなあということで、山東町のグリーンパークに宿泊して翌日伊吹山登山というのが一つの候補。あと余呉のウッディパル、琵琶湖の水泳場という話も出たけど、僕の個人的好みで福井方面の海水浴を入れた。結局話し合いの結果、伊吹山登ってもなあ、ウッディパルじゃ今までのと余り変わり映えせんし、ということで海水浴に決まり。早速正月5日に宮西と越前海岸へ下見に行った。

最初は敦賀でも良いのではという話があったが、あのあたりは8月は大変な渋滞で早朝に敦賀インターを出ても浜に着いたら昼過ぎだったなんて話をよく聞く。越前なら武生か福井で降りればよいからあの渋滞はない。それに越前へは毎年数回必ず潜りに行っているのでこのあたりのことはよく知っている。実は僕自身山派より海派で、ダイビングクラブなんてものが大学にあったらそちらに入っていたかもしれない。越前へは通いはじめてもう20年近い。最近道路事情も良くなって昔に比べると随分近くなった。あの彦根の人が10人程亡くなった崩落事故の日も天気が良ければ潜りに行く予定だった。事故はいつも潜っているところから数百メートルのところでおきていて、強行して行っていたら崩落の大音響を聞いていたのだろう。

いつもは何人かで行って採りたての魚貝類（本当は漁業権の問題で採ってはいけないんです。ハイ。でもその場で食べる分くらいなら大目に…。実際、巡視の漁船が見回りに来たことがあったが「ここで食べる分くらいならいいけど。」と怪しい注意を受けただけだった。それどころか「これくらい小さいのは逃がしてやって。あの岩場辺りまでいくと大きいのがいるから。」とポイントまで教えてくれた）を焼いて浜でバーベキューをやりながら一杯飲む。これが最高！特に採れたてのアイナメの塩焼きは絶品。以前広岡を誘ってここでバーベキューをやった事があったが、「何ちゅう贅沢なことしとるんや」と感嘆していた。ただ最近ダイビングブームとアウトドアブームの影響か、昔ならどこに潜ってもいたサザエが激減している。たまにボンベを背負った数人が大きなケースに山盛りのサザエ・アワビを何杯か浜に揚げるのを見かける（ボンベでの魚貝類採取は違法らしい）。最近山でも高山植物が栽培ブームの影響で業者に不法採取されていると聞くが、金もうけの為なら何でもやってしまうというモラルの荒廃ぶりはさみしい限りだ。

話がまた逸れてしまったが、岩場に関しては精通しているが宿泊施設となるとまるでわからない。それで良さそうな旅館・民宿のパンフを手当たり次第かき集めていった。杉津から三国の手前まで約 60 km 走って一通り集め、やはり子供も多いし砂浜がいいだろうと越廼村蒲生海岸に場所を決める。岩場の続く越前海岸にあって貴重な砂浜だ。



1999年7の月か8の月に何かが起こる？

関西支部からの大予告

いよいよ1999年になってしまいました。今年はその予言の年。そうです、関西支部の当番の年なのです。ということで、恒例の関西支部忘年会の席で今回は、

越前海岸で海水浴と宴会

ということになりました。ぜひとも御家族で参加下さい。

民宿に1泊2日（夕方迄に順次集合、翌朝解散）で場所は検討中です。（新年に偵察済）開催日を下記のように計画しておりますので、参加可能な全ての日程と参加人数を返信はがきに記入して、

2月20日までに返送をお願いします。

※ 日程 (A) 7月24日(土)～7月25日(日)
(B) 7月31日(土)～8月1日(日)
(C) 8月7日(土)～8月8日(日)

正式な案内は、日程を決定して春頃ごろにお知らせいたします。

問い合わせは、石地または宮西までどうぞ。

越前海岸で海水浴と宴会

に参加できるすべての日程と参加人数（子供の場合は年令も）を記入下さい。一番多い日程に決定して予約を入れます。

日 程	大人（人）	子供（人数・年令or学年）
7/24(土)～ 7/25(日)		
7/31(土)～ 8/1(日)		
8/7(土)～ 8/8(日)		
氏 名		

御意見または近況をお知らせ下さい。

場所が決まったところで、宮西が上記の往復はがきで23期全員に都合を聞いた。その結果、日程は8月7・8日と決まる。最も条件の良かった民宿「よねや」も予約が取れた。下見しただけあつてこの民宿は本通りから一本浜寄りの海岸通りに面した宿で文字どおり目の前が海。1泊2食で大人7,000円、子供5,500円と値段も手頃。それでも4人家族だと交通費を含めて3万円近い出費になる。



海水浴

ワッゲル23期OB通信
関西支部



1999年夏、
海水浴の
お知らせ



お待たせしました。

春ごろに連絡する予定が、大幅に遅れまして申し訳ありません。

『越前海岸で海水浴と宴会』の日程を、おしらせいたします。



8月7日(土)～8月8日(日)

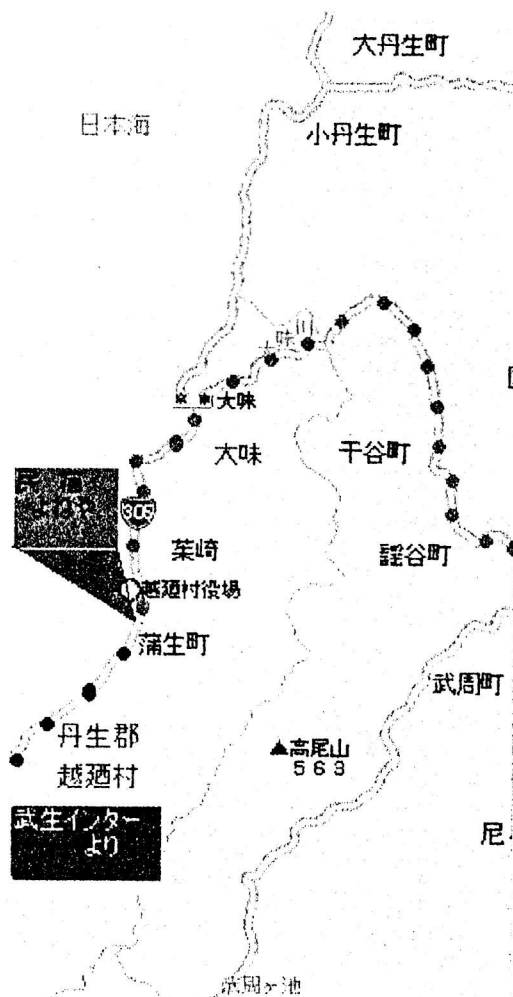
他の日程で返事を出された方も、ぜひご検討ください。

民宿の前が海水浴場なので、皆様適当な時間にお集まりください。民宿の駐車場にとめて、着替えや荷物あずかりも、民宿を利用できます。夜の宴会までは自由行動で、特には催し物を考えておりません。翌日も朝食後順次解散としますが、シャワーや着替えはできと思います。

最終の、予約確定のため同封のはがきに出欠を記入して**7月17日必着**で返送して下さい。

民宿は、よねやです。

福井県丹生郡越廼村蒲生11-6 TEL(0776)89-2266



8月7日～8日の 越前海岸で海水浴と 宴会に

- ☐ 参加
☐ 不参加



参加される方は、人数等記入ください。

大人 () 人

子供 () 人 年齢or学年 ()

氏名[]

ご意見または近況をお知らせください。

同封の、『よねや』のパンフレットも参考にしてくだ

前ページの通り、宮西の力作で案内状を送付した。一応企画として地引き網や体験漁業（大敷網の最後 30 分程を手伝うというもの）を探したが、地引き網は越前海岸ではやっていないとのこと。体験漁業も日曜の AM4:00 からということで参加者に呼び掛けはしたが早起きできる自信のある者はいないようで希望者はなし。

ということで、今回はメインを夜の宴会としてあとは各家族単位で楽しんだらいいだろうということになった。幹事の役割分担は、興井が花火とすいか割りの準備、宮西が会計とこまめな連絡係、僕が巨大クーラーを幾つか用意してビール・酒・つまみの準備、ちーちゃんは宴会盛り上げ役となった。

1 日目、僕はいつもの岩場で潜っていて（今回はカミさんが臨月だったので単独参加）宿に着いたのが夕方だったので既に全員宿に入っていた。聞くところによると三々五々宿に着いて家族単位で適当に泳いで夕方には宿に集まったらしい。そして夜の宴会。料理の方は舟盛りを 4 つ用意して値段の割には豪華そうに見えるようにした。ただ、半分近くは子供なので今回も終始子供会の雰囲気ですぐに花が咲くなんていう状況からは程遠い。それにしてもみんな飲まなくなった（飲めなくなった？）。それだけ年をとったということか…。宴会もそこそこに子供たちを連れ浜へ出て大花火大会。遠くにイカ釣りの漁火が浮かぶ静かな夜の海に色鮮やかな花火が舞い上がってなかなかの風情である。

そして子供たちが寝静まったあとが我々の時間。今回は宇野の話が中心だった。実は昨年末宇野から年賀状欠礼の葉書が来た。見ると奥さんが亡くなったとのことではびっくり。折しもその 1 ヶ月前、僕の高校時代の同級生で、同業でもあり、業界青年部の会長・副会長と一緒にやっていた友人が会長現役のまま急死したばかり（しかも亡くなる前日は親会主催の慰労会で隣で飲んでいて）だったので、身近なところに続く不幸に暗い気持ちになったものだ。彼の会社は社員 50 名余りの我業界中堅企業だったが、今年に入って病身の親父さんも亡くなり若き指揮官を失った会社はあっけなく倒産してしまった。まさに人生何が起こるか分からない。

宇野の奥さんとは随分前の同期会で一度会ったきりだが、きわめて健康そうで病弱な雰囲気はかけらもなかった。宇野の話によると、一度ガンの手術をしていったん回復し職場復帰もしたらしいがその後転移したらしい。最期の方はかなり痛みに耐えかねていたと言っていた。幼子を残してさぞや無念であったろう。現在子供は名古屋の実家で育ててもらっているとかで毎週末福井と名古屋を往復するという大変な生活を続けている。普段は飲んだくれていたとかで（確か学生時代あまり酒が強くなかったはずだが今回一番飲んでいたのは宇野だろう）、「何でみんな飲まんのか。ほんまに弱くなったな。」としきりにボヤいていた。翌日のこともあったので 12 時には寝たのだが、宇野ら 3～4 人はまだ飲んでいただろう。



○ ○ ○ 犬 ○ ○ ○ ○ ○ ○
 戸水村井 名倉中川 宮西 ○ 小久保 宮西 中川 興井 村井
 小久保 宇野 名倉 石地 戸水 高橋○ ○
 (撮影 興井)



高橋 (旧姓塩山) 宇野

翌日、小久保、村井と子供たち数人が早朝より近くの港で魚釣りをしていたらしい。が、食べられるほどのものはとれなかったようだ。朝食後、集合写真を撮る。幹事が全員カメラを忘れて来たので戸水のを借りる。ナリの家族は所用により帰っていった。10時半からはすいか割りですれまで自由行動。その間を利用して沖のテトラポットまで泳いでみた。裏側にまわると砂浜なのに意外と所々サザエがテトラに付いている。これは後で子供たちに焼いてやれると採っておく（本当はいけないんです！）。小さなタコもいた。これも誰か喜ぶだろうと袋に入れる。浜に戻ると興井の家族がいたので早速子供にタコを見せた。気持ち悪いと言ってつかもうとしない。興井が「あれ、やっぱし石地やったんか」。何でもテトラの上から潜っているのを見ていたらしい。タコはすぐ逃がしてやるつもりだったが、興井の「食おうぜ」の一言であわれブツ切りの運命に。

10時半になりすいか割り。担当の興井は、砂浜だと台が要ると言って小さなみざらまで用意していた。ただ、砂浜でやると割れたすいかが砂まみれになりそうなので、結局は駐車場の空いた所を借りてやった。何人目かで棒が折れるハプニングがあったが、すいかもみんなに配り一応これで団体行動は終了。あとは各家族自由に泳ぐなりして適当に帰ってもらうことになっている。

さて、先程のサザエとタコだが、実は個人装備として20人分程度の焼きそばの準備をしてきていた。本当は昼食としてバーベキューをやればよいのだが、人数分コンロから鉄板から材料から用意するのはとても無理だから昼食は各自で食べてもらってちょっとした付け足しに子供たちだけにでも焼きそばをと思って準備しておいた。まずは網でサザエの壺焼き。それと前日たまたま採れたアワビを刺身にする。そして鉄板で焼きそば。豚バラと共に具になったのがタコのブツ切りである。これが意外とプリプリと歯ざわりが良くうまい。宇野がずうっと焼く世話をしてくれて、宿に残っていた数人以外の大半が舌鼓を打った。大いに盛り上がった昼食海鮮バーベキューであった。

こうして今回の同期会はお開きとなった。次は金沢が担当で何か企画してくれるだろう。この年になると1～2年ぶりでは変わり映えしないが、子供たちの2年は随分成長している。次回はうちも子供2人連れて4人で参加できるだろう。2年後が今から楽しみだ。

